

知立駅周辺^{エリア} まち育て ワークショップ

振り返り通信 vol.04

第4回
知立駅周辺エリア
まち育てワークショップ
の報告です。

2023年
1月14日(土)
13:30~16:00



未来のすごし方を創造しよう(2)

「いいね！」を叶える取組や仕組みの
アイデアを出す



全5回ワークショップ

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 10月15日(土)
こんな地域がいいな |
| 第2回 | 11月19日(土)
まち歩きで未来を想像しよう |
| 第3回 | 12月10日(土)
未来のすごし方を創造しよう(1) |
| 第4回 | 1月14日(土)
未来のすごし方を創造しよう(2)
-「いいね！」を叶える取組や仕組みのアイデアを出す |
| 第5回 | 2月18日(土)
未来のすごし方を創造しよう(3) |

これから姿を大きく変える知立駅周辺エリアの未来をみんなで考え、暮らしやまちを豊かにするための連続ワークショップを開催しています。(全5回)

1月14日に開催された第4回では、市民、学生、専門家、行政、約30名が集まりました。前回話し合った「未来のすごし方」を実現するための取り組みや仕組みについて話し合いました。参加者からは、設備と空間、取り組みや仕組み、組織づくりやプロセスなど様々なアイデアが出されました。

当日の流れ



1



前回の振り返り

第3回を振り返り、成果を確認しました

2



実現したいすごし方の選択

グループに分かれ、第3回の振り返り通信を見ながら実現したいすごし方を選びました

3



実現カードの記入

選んだすごし方を実現するためのアイデアをカードに記入しました

4



語り合い

カードを発表し、取り組みや設備や整備、仕組みなどのアイデアを語り合いました

5



場所関係を確認

場所が決まっているアイデアについては地図で確認しました

6



まとめ

話し合いから、実現のために大事なポイントを〇力条にまとめました

7



全体発表

班の成果を全体で共有しました

8



フィードバック

発表の内容で、自分ができそうな取り組みについて話し、終了しました

1 班

「トライ&エラー」でとりあえずやってみよう！ ～小さな取り組みの積み重ねが大切

★取り組み、 ■設備と空間、 ●仕組み

駅前広場、駅前周辺のにぎわいづくり

① 魅力ある店が並ぶ駅前にする

- ★ 大学生や保育園児を持つお母さんへのアンケートを実施し、そのマーケティングの結果を広く共有する

② 若者が集まる駅前広場にする

- 雨風がしのげる設え、フリーWiFiなどの設備を備え、キッチンカーなどが停車できるような環境づくり

③ 駅前マルシェなどのイベント（昼間と夜間）を開く

- ★ 知立を知ってもらえるよう、知立の飲食店が、まち歩きをしながら食べられる軽食を出店する
- ★ マルシェを昼間だけでなく夜にも行う（お酒など）と違った客層にアプローチできる

④ 飲食店のテラス席を歩道に設置する

- 行政が条例等で歩道の占有許可を出す（緩和する）など、規制緩和をすすめる。

音楽や文化を通じたにぎわいづくり

① 30m 道路で音楽イベントを開催する

- ストリートピアノを設置する。道路近くにイベント開催時に使える公衆トイレを整備する

② 音楽を通じたにぎわいづくりをする

- 駅前にピアノ歩道（歩くと音が鳴る歩道）をリリオホールまで敷く
- 防音の練習室を増やす
- ★ リリオホールで様々な楽器のレッスンをを行う。楽器の貸し出しも行う
- ★ 音楽練習の発表会の開催。将来プロになった知立出身の演奏家の凱旋公演の開催

③ 山車文化を多くの人に知ってもらう

- ★ 親子や子ども対象でブロックや木材を使って山車をつくるワークショップの開催。駅前の展示スペースで、作品の展示
- ★ 山車やまつりの映像作品の募集
- 駅前広場にデジタルサイネージを設置して、山車やおまつりの映像作品を上映する

市民参加でつくるにぎわい

① 市民参加型のイベントを開催する

- まちの美化、街路樹や植栽帯の維持補修に必要な道具をそろえ、みんなできれいなまちづくりを進める

② 宿場町をイメージしたプロムナードを整備する

- ★ 愛知教育大学の学生に、宿場町がイメージできるアート作品を作成してもらい、展示する

③ 知立市らしさ、愛着が感じられるまちづくり

- ★ 馬、蹄鉄、鯉、鮒など知立らしさを感じられるモチーフをテーマにしたアート作品の公募・展示
- 都築屋さんの瓦など、再開発に伴って生じる廃材などをベンチや新しいまちのどこかに再利用する

④ 駅前での明かりアートイベントの開催

- ★ 大学生とコラボレーション。ジェルキャンドルを作成し、通りに並べ、夜に人流をつくる

⑤ 駅前から旧東海道などへいざなう観光コースを整備する

- 看板など案内板の整備。私が（業務として）チラシなどの作成をする



実現のための 4か条

- 1 大学生や若者などとのコラボレーションで取り組みを自分ごとに
- 2 マーケティングやアンケート結果、トライ&エラーの結果を、広く共有し、みんなに活かしてもらう
- 3 行政による規制緩和
- 4 音楽や文化、知立らしさを通じたにぎわいづくり

★取り組み、■設備と空間、●仕組み

★ 駅を降りた瞬間に知立らしさを感じられる

- ① 駅を出たときに知立を感じられる空間をつくりたい
 - 駅前広場に山車を設置する。ロータリーの真ん中はデッドスペースになるので、そこを活用する方法もある
- ② 山車の組み立てワークショップ
 - ★ 地元の人みんなで
 - ★ 本物の山車を使うことは難しいので、小さくても良いから、ワークショップ用の山車を作成する
 - ★ 解体した後の材も活用してアクセサリ・キーホルダーなどを作成して販売する
 - カフェや屋台からも見える場所にワークショップを開催できる空間を整備する。電源はソーラーパネルなどエコな電力が使えるような環境を整備する

★ 環境にやさしい交通

- ① より多くの人利用できる知立駅に
 - ロータリー・駐車場など車で訪れる人への配慮を。なるべく近い場所への駐車場の整備、駐車場から駅前まで歩いて楽しい通路の整備など
- ② EVバス、自動運転車
 - ● 自治体や交通事業者がEVバス、自動運転車を導入するソーラーによる自家消費電力の導入
 - 中電が導入
- ④ 高架下や通りのあり方
 - 名鉄さんやディベロッパーによる都市開発 SAKUMACHI 商店街のように、カフェや保育園などとして活用

★ 静かに過ごせて・おしゃべりもできる場

- ① さまざまなニーズに沿った学生向けのスペース
 - 図書館やカフェが駅周辺にあると、学生が訪れるきっかけになる
 - 話題がつけれる図書館ができれば、プロモーションにもなる。大きなスペースが必要なため駅前から離れるかもしれないが、駅前と繋いで回遊性を生み出せると良い
- ② 学生が放課後に過ごせる居場所に
 - 勉強ができるスペースと商業施設（スタバなど）静かに勉強できる場所と、おしゃべりできる場所、両方が必要で、それが繋がっていると良い



★ 地域の人々が活動などを披露する

- ① 野外ステージの設営（道路でもOK）
 - ★ ● 幅広く誘致できるように（サークル、部活動など）
- ② 地元の人々が気軽に活動できる場をつくりたい
 - 学生やママサークル、高齢者、子どもなどが趣味の活動、マルシェなどで使える広場・発表の場所をつくる
 - 活動を披露したい人と場をマッチングするための仕組み
- ③ 駅前の広い道路での出店の展開
 - 大学のサークルなどに呼びかけ、大学生が訪れるきっかけづくり
 - 道路やステージなどを利用しやすい制度、守るべきルール の整備

★ 道路・歩道と店舗などの屋内をあいまいに繋ぐ

- お店の中だけではなく、その雰囲気や街へにしみ出るような仕掛けとして、沿道のお店が道路側にテラスや椅子・テーブルを置く
- これが可能となる制度、例えば、建物のセットバック、道路の使用許可基準の緩和などを行う
- 30m 道路もホコ天のようにになると良い。常時は無理でも、休日だけでも定期的に

★ 学生やママなどが駅前でチャレンジできる

- ● 学生が日頃の成果を発表するイベントを行ったり、日頃活躍できる場所を設置（学生運営のカフェなど）
- ママや学生が運営できるカフェなどがあっても良い。常設じゃなくてもチャレンジショップのでも良い。お金や経営の勉強にもなる
- ★ 大学などとも連携。山本学園の調理コースの学生たちの中には、やってみたい学生もいると思う

実現のための

5か条

- 1 多様な世代、属性の意向をきちんと把握して考える
- 2 すでに駅を利用している人を選んでもらえることを考える
- 3 あらためて知立らしさを考え、知立の良さを守る
- 4 一石二鳥の事業、空間の整備・仕掛け
- 5 誰もが自分ごととして参加できる仕掛け

★取り組み、■設備と空間、●仕組み

★ アンケート段階の再現

- ① 気軽に話ができる場所や勉強ができる場所、ショッピングモールのような空間
 - ★ どんな店・どんなジャンルの施設が必要かを、様々な人、住民で相談して決める
 - 行政から近隣の学校、自治体、駅で幅広くアンケートを回収依頼し、それを元にお店を誘致する
 - アンケート方法も、街頭などの紙での回答から QR でのネット回答まで、世代に合わせて答えやすい方法を選ぶようにする

- ② 子どもにとって魅力ある公園、場所作り
 - ★ 愛知教育大学の学生が子どもたちと話す機会にアンケートをとったり話を聞いたりしてみる

★ 実験・実行段階の再現

- ① 大人向けの食事スペースのある公園をつくりたい
 - ★ 知り合いのキッチンカー業者に声をかけて、公園や暫定広場で社会実験として出店してもらう
- ② 高架下でテニスをはじめとしたスポーツ施設をつくりたい
 - ★ 自分の所属するクラブのコーチなど、企画したい人や営業したい人を誘致する
- ③ 子どもがのびのびと遊べる公園をつくりたい
 - ★ 関連会社に声をかけ、人工芝を借りて敷く実験をする
- ④ 子どもの遊ぶ場所で人と人がつながるようにしたい
 - ★ 私が通う大学にある子どもに関わる団体に話をつなげ、企画・運営を行ってもらう

- ⑤ 親子が過ごしやすい空間をつくりたい
 - 親：子どもの理解や 子育ての勉強ができる場、親同士や専門家と話ができる場、
 - 子：広いスペースで様々な遊びができる場
 - ★ 私が授業で出会った教授や外部の人（弁護士）に勉強の機会を設けてもらえるようお願いする

- ⑥ 自由な空間と遊具が有り、誰でも遊べる場所、親子や世代を超えて遊べる場所
 - 行政がエリア分けをし、それぞれのカラーにあった店舗等を誘致する

★ イベントの実施段階

- ① イベントの実施をしてみる
 - ★ 広報面では、名鉄や学校などに協力してもらい、多くの人の目に触れるようにする
 - ★ 保育園や学校とタイアップし、当事者や関係者を増やし、継続を図る。広報面としても口コミで広まるようにする
- ② 地元の特産品マルシェをやりたい
 - ★ 商工会や地元の方々に出店してもらう。
 - 市で30m 道路を一日だけ占有させてもらい、屋台のように出店できるスペースを作る
 - ★ 地元の農家に協力してもらう

- ③ 弘法山のイベントと関連した駅前でイベントを行いたい
 - ★ 行政が弘法山のイベントと駅前でイベントの調和が取れるように調整をする
 - ★ おしゃれカフェなど SNS に強いところを誘致するほか、駅前の店舗もイベント時は出張し、人が駅前だけでとまらないよう協力し合う



実現のための

3か条

- 1 段階を踏み、段階ごとに協力者を考える
 - ① アンケート ② 実験
 - ③ 実験を踏まえたアンケート ④ 正式な実行
 - 2 地元の人々の理解と協力を考える
 - 3 他市に住む学生や社会人も巻き込む仕組みづくりをする
- ※前提として、使う人の意思を確認することを大切にしよう！

★取り組み、 ■設備と空間、 ●仕組み

★ 昼も夜も賑わう場所や仕組み

① コワーキングスペースの設置

- 知立市の知的財産や最先端技術などの展示スペース
- 企業の誘致や技術のショールーム的な役割
- 観光関連の情報発信
- 高校生や大学生が利用しやすいよう電源やWiFiが利用できるよう整備

・2022年度のよいとこ祭りは人も多く、市役所の会場では手狭な印象
 ・調整はかなり難しいが、会場として駅周辺を使えると機運も高まってよいのでは

★ ハードのスケールに合わせた賑わいの見せ方

① 全員でまちそうじをする

- ★ 全員で掃除をする
- ★ 市が定期的にプロギングを開催する
- 自分が、町内会や市民、役所へ依頼、周知をする

② 沿道の方々との協力、関わりしるを持てる工夫

- ★ 沿道の住居や建物の軒先に、提灯をぶらさげて一体感や雰囲気を出す
- ★ 沿道の方々等に、まちの記録や写真を残してもらう。定点で継続的に残すことを習慣化する、
- 私が、沿道の方へお願いして荷物等を置かせてもらう

・子どもの発表はその家族も呼ぶことができる
 ・発表の機会や場所があるという印象が根付けば、エリア外の人が集まる動機にもなるのでは

★ フレキシブルな空間と活動

① 音楽やファッション、ダンスなどの発表の機会や場所

- ★ 子どもや学生が発表できる
- ステージやビジョン、音響等設備手配で貢献できる

② 定期的かつ多様なスポーツイベント、教室の開催

- ★ 子どもたちが参加できる小学生対抗のスポーツ大会
- ★ モルックや3on3、eスポーツや新スポーツの大会
- 競技できる適当なスペースを確保
- 子ども会や町内会、学校等への周知
- 行政が企画・運営する

③ 災害時にも対応できる広場や公園

- 帰宅困難者も受け入れ可能なインフラ整備（電気・ガス・水道、テント等）
- 行政、専門家、鉄道事業者、地域住民の連携

③ よいとこ祭りを駅周辺で開催する

- 市が駅周辺の関係者に協力や賛同を得る

④ クリスマスの駅前イルミネーションや駅舎へのプロジェクトマッピングの投影

- 鉄道事業者や行政、商工会、JC等が連携

⑤ 気軽に企画できる仕組みづくり

- 市がその制度を整える

・高架化により、一層まちへの誘導が難しくなる可能性がある
 ・電車で来た人を地上動線へ促す仕組み
 ・広域ネットワークでつなぐ拠点も多様に

★ 広域の人が交わる拠点

- バスターミナル、電車からバスへの乗り換えによる交通の要衝の機能向上
- ★ プロデュースや企画で貢献
- 行政や交通事業者、関係自治体、病院、学校、企業、商工会等の連携
- サイネージ、時刻表行先表示版

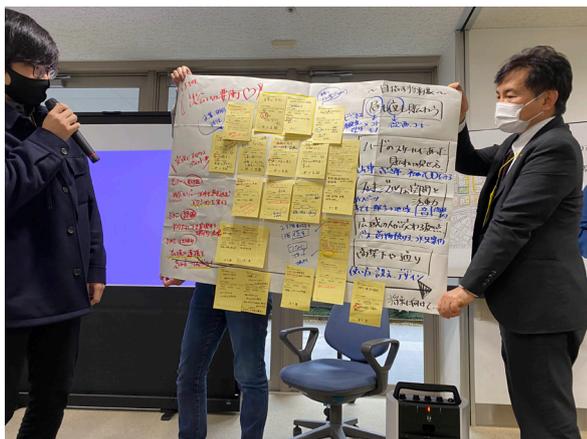
★ 高架下や通りのあり方

① 高架下の横丁飲み屋街

- ★ 自分が商工会員に出店者の募集を行う

② 鉄道高架下活用、商店街やフィットネス、ワークスペース等

- ★ 新しいビジネスや商機を積極的に誘致する



実現のための

3か条

- 1 ワークショップメンバー以外も巻き込んで、みんなでアクションを実行します
- 2 やりたいことを実現する広場や公園を豊かなものにします
- 3 エリア内の移動から広域の連携まで、一体的な繋がりを大切にします

★取り組み、■設備と空間、●仕組み

駅前には知立らしく、愛着をもてる風景に

① 駅前の植栽の中に畑をつくる

- 駅前の一画に小さな農園か果樹を設置する
- 市民オーナーを募り、1年目はバケツや可動式のもので試してみることから始める

② 映えスポットをつくる

- デザイン性の高い建築物や作品を設置する
- ブランディングロゴやワードマークモニュメントを置く

知立らしい文化、スポーツイベント

① 謎イベント選手権の開催

- ★ 自分たちで知立らしいイベントやスポーツを生み出す
- ★ まずは他市でやっている独特なイベントを暫定広場で出張実施
- 自分たちで経験を考察したり、アイデアを募集して新しいイベントをやってみる

② 定期的に話題になるイベントを行う

- ★ フードフェス（地元産の農作物）や地元のアーティストと協働
- ★ テーマを定めて各所で取り組む

③ 絵本、大型紙芝居の読み聞かせや、ブックトーク

- ★ 文化課が駅前公園付近で行う

④ ブックマルシェ（古本市）を駅前でやりたい

- ★ 整備前から、読まなくなった本を集めて、暫定広場で試験的にブックマルシェをやってみる
- 広報で市民に呼びかけ実施、のちに定例化する
- トラック古本市などに発展していくと良い

オープンスペースを居心地よくするために

① 水の風景と音楽

- 駅前広場に噴水や時間によって違う音楽を流せる音響設備

② 芝生広場を整備する

- ★ 一人でもとりあえず人工芝を敷いて寝転ぶことからはじめる

③ 誰でも勉強や仕事ができる

- エキタスの中にWiFi環境のあるオープンスペースをつくりたい

④ 季節感のあるイベントを行う

- ★ 春のひなまつり・こいのぼり、夏のたなばた、秋のハロウィン、冬のランプづくり
- 冬つくったランプはベンチに設置する
- 冬に焚火を囲むスペースをつくる
- ★ キャンプ好きに焚火の世話をしてもらい、お汁粉をお供に火を囲む
- 冬はイルミネーション
- イルミネーションは南北線などの沿道や様々な主体で実行委員会をつくる

様々な協働で公共空間を使いこなす

① 歩道や公園でオープンカフェ

- 南北線沿いなど、広い歩道を活用してオープンカフェができるようにする
- 高架下にカフェや飲食店が出店できるようにする
- 高架下のカフェ・飲食店では、堀切公園で使えるレジャーシートのレンタルができるなど、沿道店舗が連携して公園の使いこなしを誘発するような仕組みにする

② みちや広場を使いこなすイベントや設備

- ★ 移動式のカフェを呼んで定期的なマルシェイベントを行う
- ベンチと植栽の仮設置で社会実験を行うことで、本整備につなげる

③ カフェ等の店舗に電子図書コーナーを設置する

- 市の文化課が駅前付近の店等に市の電子図書コーナーを設置することで、電車に乗る前にカフェに市民が寄るなど、市民サービスが日常的に身近になり、店の誘客にも貢献できる



環境にやさしい風景をつくる

① 地産地消で地域の好循環をつくる

- 地域コインの導入で、助け合いや地産地消、エコな行動で持続可能なまちづくりへの貢献を促す

② 環境にやさしい移動

- 駐車場のEV充電整備
- EV車シェアの仕組みづくり（平日社用車としてつかう車を休日には来訪者のシェアカーにする）
- マイクロモビリティの推進
- ZEB化
- 社会実験として、発電する自転車を市が設置する

③ 再生可能エネルギーで夜間景観を

- 駅のソーラー等の蓄電設備で提灯を充電できるようにする
- 駅周辺の店舗が夜になると駅に提灯を取りに行き、軒下にかかげる
- ソーラースタンドを設置し、充電できるようにすれば防災力も高まる

実現のための
5か条

- 1 ビジョンを共有しよう！
- 2 暫定広場でさまざまなアイデアを実行してみよう
- 3 キーパーソンを発掘しつづけよう
- 4 連携・協働のはじまりは「〇〇実行委員会」から
- 5 公共空間の運営をする組織づくりを！（ex. まちづくり会社でオープンカフェの運営など）

全体共有の様子

全体で5つのグループが成果を共有し「未来のすごし方」を実現するための大事なポイントを提起しました。最後に共通する視点を確認しました。



- ① トライ＆エラー！まずはやってみよう
- ② 段階的に取り組む道筋を描こう
- ③ 多様な担い手と複合的な取り組みをしよう
- ④ 日常や知立らしさを育む視点を大切にしよう
- ⑤ アクセスしやすい環境をつくろう
- ⑥ 他市の人や様々な得手をもった人を巻き込もう
- ⑦ コミュニケーションになるような取り組みをしよう
- ⑧ 暫定広場を使って社会実験しよう
- ⑨ 実行委員会方式で実践しよう
- ⑩ キーパーソンを発掘しつづけよう



アンケートより

(1) ワークショップに参加して

- ・ 駅周辺での実現したいアイデアがより具体的になりイメージできるようになった。
- ・ 色々な人の意見を聞くことで、広い視野を持ってまちづくりに取り組むことができる。

(2) 印象に残ったこと

- ・ 知立のまちづくりに携わりたい方がいらっしゃること。
- ・ 今後の巻き込みとトライ＆エラーの積み重ねを期待する。
- ・ 日常利用している学生が知立駅周辺に魅力を感じていないことが大きな課題だと感じた。
- ・ 駅前での出会いが日常になっていく。繋がりができることが防災の向上につながると思った。関係づくりがあることで助け合いの精神が生まれやすいのではないか。
- ・ キーパーソンを発掘し続けることが大事ということが印象に残った。

(3) ぜひ実現させたいこと

- ・ 市民参加型イベント開催 (30m 道路) ・ ゴミ拾い (プロキング)。
- ・ 知立らしさや賑わい創出のデジタル支援の PR ・ 子どもとイベントやまちづくり ・ ボランティアに積極的に関与する。
- ・ 「山車を駅前に展示・実際に組み立て」というのは、知立独自の文化を感じることができ、やってみたいと思った。
- ・ 清掃活動等は誰でも気軽に取り組むことができるので、自分ごとの取り組みとして良いと思った。

(4) ワークショップの運営について

- ・ 色々やってみて、何が成功するか、失敗するか、やりながらビジョンを形作っていく進め方である。



知立駅周辺エリアまち育てワークショップ 振り返り通信 vol.4

発行日：2023年2月18日

発行：知立市市民部 経済課 商工観光係 (0566-95-0125 (直通) keizai@city.chiryu.lg.jp)

8 協力：大日本コンサルタント株式会社、NPO 法人まちの縁側育くみ隊